

今週の富大生

# Weekly TOMIDASEI

第29号

芸術文化学部  
芸術文化学科 2年  
金沢大学人間社会学域  
学校教育学類附属高等学校  
(石川県)

アートの力で被災地に元気を届ける



## 「まちづくり」「文理融合」がキーワード

高校では文系を選択していましたが、理系分野も好きでした。そのためどちらも捨てがたく、「文理融合」の学部の魅力を感じていました。

前期は「まちづくり」が学べる「文理融合」の学部がある他大学を受験しました。後期では学問領域が似ていて、地元からも近い富山大学芸術文化学部を受験し、進学を決めました。

## 充実している学生生活

1年次は五福キャンパスで教養科目を学べるので、幅広い分野の授業を履修しました。やりたいことを一生懸命取り組むことで落ち込んだ気持ちを払しょくできました。高校生の時からやってみたくと思っていたアカペラサークルに参加したことも大きいです。他学部の学生と交流できることが刺激になっています。

1年次の春休みには学部1年次対象の短期海外英語履修で、マレーシアに2週間行きました。高校までに「やってみたく」と思っていたことを実現でき、充実した学生生活を過ごしています。

## 先輩の卒業研究から能登とのつながり

1年次の夏休みに、建築デザインコースの4年生の卒業研究（テーマ：“縁”小路-子どもたちの居場所のための仕掛け）のお手伝いの募集がありました。

小学生の頃、学童保育の経験があり、子ども食堂や駄菓子屋といった「家でも学校でもない、子どものサードプレイス」に興味がありました。1年生の参加者は私一人でしたが、せっかくの夏休みに何かやりたいと思い参加しました。

「楽しそう」という思いから参加した活動でしたが、その土地、過ごした時間、出会った人々、すべてが私にとって「能登=大切な街」という意識に変わりました。

## SNSがきっかけで被災地をアートで支援

2024年の元旦に発生した能登地震で、私は真っ先に能登の人たちの顔を思い浮かべました。「何かできることはないか」と考えていたところ、4月にSNSを通じて「能登の深見町の真っ白なインスタントハウス（仮設住宅）に絵を描いてほしい」という投稿が目にとまりました。私にもできるのでないか、と考えて後輩の1年生に声をかけて約20人で仮設住宅にペイントしに行きました。のべ20日間かけて描きました。活動の中で、現地の方にも「元気になる」と声をかけていただきました。全国放送でも私たちがペイントしたインスタントハウスが流れました。このインスタントハウスを見た人や能登の人に温かい気持ちになってもらえたことが嬉しいです。そういった活動が評価され、教養科目の「富山から考える震災・復興学」という授業で講義をするという経験もさせていただきました。



## 参加者を集めて、続けていきたい活動

被災地の復興支援に関わる中で、まだまだ長い目で見ていく必要があると感じています。継続して共に活動に携わってくれる人を集めて、支援を続けていきたいです。